

誰一人取り残さない外国語教育をUDLで実現。

学びのユニバーサルデザイン(UDL)を言語教育に応用し、
多様な特性を持つ学習者の可能性を最大限に引き出す。

「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」は全ての学習者に効果的な学習環境を提供するためのフレームワークです。高等教育の言語教育では学習者の多様化が進み、従来の画一的な手法では限界があります。本研究はUDLを韓国語教育に応用し、APUの多言語・多文化環境での実践を通じて、多様な学習者に対応する教育方法を開発。学習者の可能性を最大限に引き出す外国語教育の実現を目指しています。

研究代表者

鄭 鍾熙

JUNG Jonghee



立命館アジア太平洋大学
言語教育センター 准教授

「新しい言語を学ぶことは、新しい自分や世界に出会うこと。その喜びを一人でも多くの学生と共有したいです」

新規性・独自性 | 高等教育機関の言語教育におけるUDL応用。その先駆的な実践研究を行う。

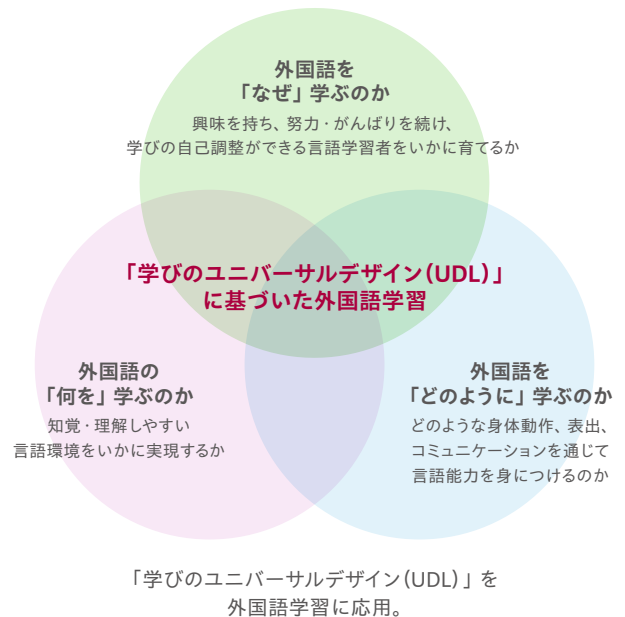
本研究は、これまで主に初等・中等教育で活用されてきたUDLを、高等教育の言語教育、特に韓国語教育に応用する先駆的取り組みです。高等教育ではUDLの必要性がまだ十分に認識されていません。しかし、LD(学習障害)を持つ学習者だけではなく、母語や文化的背景、入学時の言語能力差など、学習者の特性は多様化しています。「十分な学業達成が実現されないのは、学習者ではなくカリキュラムに問題がある」というUDLの理念に基づき、すべての学習者に平等で公平な学習機会を提供しようとする本研究は、グローバル化・多様化が進む日本の高等教育における重要なモデルケースとなるはずです。



研究代表者 鄭鍾熙の
著書『Kスタート! できる・つながるコミュニケーション韓国語入門』(白水社)。



UDLの考え方に基いて構成された、初めての韓国語の教科書。今後、この教科書を用いた授業を行う。



3つの主原則に沿って構成される教育フレームワークで、
学習者を“誰一人取り残さない”ことを目標としている。

社会連携に向けて | 高等教育における言語教育をより良いものにするため、多方面との連携を目指す。

本研究ではUDLに基づく言語教育の普及のため、多方面との連携を構想しています。まず、言語教育者との協働により、高等教育機関における外国語教育の新スタイルを確立し、教員研修プログラムを通じて実践的展開を支援することを目指します。次に企業との連携では、学習者の多様なニーズに対応するデジタル教材や学習支援システムの

共同開発を目指します。さらに行政機関との連携では、各県の教育センターや地域の外国人支援センターと協力し、UDLの理念に基づく言語教育支援の輪を広げていきたいと考えています。また、現在一部国立大学で行われている学習支援の知見も借りながら、私立大学を含めたより多くの大学での学習支援体制整備に貢献することも目標です。

